

神楽坂商店街の坂上・坂下の魅力の違い

—時間帯で変化する商店街の二面性—

松村優里

筆者は、趣味のお菓子巡り、街歩きの一環としてよく神楽坂を訪れていた。その際に筆者は、神楽坂の2つの魅力である「和」と「フランス」は神楽坂商店街の坂上・坂下で分断されているのではないかという疑問。街の雰囲気が場所と時間帯で変化すると感じた。神楽坂商店街は、賑やかで明るい街というイメージを抱いたが、花街建築を見ると幻想的で大人な街というイメージの変化を感じた。そして、それが顕著に表れる瞬間が昼間と夜であると考え、筆者が感じた「分断」と、「変化」が生じる原因を明らかにする。

さらに、今後の神楽坂商店街の可能性、在り方について考えた。

第1章「はじめに」では、神楽坂の和とフランスの共存、筆者が神楽坂を訪れた際に感じたことを踏まえ研究に至るまでを述べた。さらに、神楽坂商店街の特徴である和とフランスの分断。時間帯で起こるイメージの変化。この二点を指摘した。

第2章「神楽坂商店街と花街建築についての調査」では、歴史を辿り現在の神楽坂に引き継がれている影響を考察。神楽坂商店街の坂上・坂下では商店街組織の方向性の違いを指摘。神楽坂商店街における和とフランスの特徴を明らかにした。その中で、筆者は、和とフランスは相容れないものであると推測していたが、花街建築の特徴である石畳路地がよりフランスを強調させる原因となっていたため、効果的に作用し合っていたことが判明した。

第3章「神楽坂商店街についてのインタビュー調査」では、神楽坂商店街坂上・坂下に勤務する方々にインタビュー調査を行い現在の商店街の動向、昔の神楽坂の消失について知ることができた。

第4章「時間帯で変化する商店街の二面性」では、メインストリートと花街建築での照明の色と光源の高さの違い。建築物の違いについて指摘した。

第5章「考察」では、神楽坂商店街の坂上・坂下の魅力の違いと今後の可能性の考察として、坂上・坂下の協力でさらなる商店街の発展を推測。また、神楽坂通り地区地区計画の建築物以外の視覚的要因・メインストリートと路地の連続性の規定改善が必要だと考察。インタビュー調査考察では、新潟県糸魚川市を例に挙げ昔ながらの神楽坂を継承していくためには、かくれんぼ横丁内の無電柱化。さらなるPRが重要だと考察。時間帯で変化する商店街の二面性の考察では、光と建築から二面性が生まれると考察した。

第6章では、「まとめ」では、各章節のまとめと「黒塀の要素を取り入れたベンチの色彩変更」「ベンチの設置数増加」を提案。神楽坂商店街を調査する上でみえてきた今後の課題を指摘した。

神楽坂商店街の坂上・坂下で和とフランスの魅力の分断は、それぞれが所属している商店

街組織の方向性の違いが原因であった。そして、時間帯での魅力の変化はメインストリートと花街建築路地での照明と建築が原因であることが判明した。

今後の神楽坂商店街の可能性として、「ベンチの設置数増加」、「黒塀の要素を取り入れたベンチの色彩変更」を提案する。二つの提案は、分断から発生する花街建築のPR不足を解消と、観光客的需要を補うことができる。そして、神楽坂商店街をさらに発展させるには、坂上と坂下の協力が必要不可欠であると考察した。